

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、イノベーションを実現するポテンシャルをもったエンジニア（イノベーション・エンジニア）を育成することです。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

現在、重大な転換期を迎えている日本企業にとって喫緊の課題は基礎研究や技術開発の成果をもとに新たな基幹産業を創出することです。そのため「何を」作り出すかを考える高い能力を持つエンジニアの育成が急務で、エンジニア教育を担う高専としての取組が急がれています。

―なぜこの7高専で連携することになったのですか。

従来、連携校では様々な特色ある教育資源やノウハウを蓄積しており、「技術の社会実装」のコンセプトのもと、この7高専で連携することにより新しい高専教育を効率的かつ効果的に構築することが可能となるためです。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24年度は生活を豊かにするサービズを実現するものづくり「社会実装コンテスト」開催に向け、学生に「技術の社会実装」に取り組む経験を積ませるとともに、各校のカリキュラムや取組事例の調査を実施します。平成25年度からは科目と教材の開発及び試行に向けた事業を展開します。平成27年度からはエンジニアリング・デザインを中心に標準テキストの作成に着手し、事業終了までに本科と専攻科を融合した「イノベーション特科」（仮称）の教育プログラムを導入する計画です。また事業期間中に蓄積された成果やノウハウを連携校と共有することで、学生間の交流学习も容易になりますので、事業終了後も取組中に開発した教育プログラムや教材を活用しイノベーション・エンジニアの育成に取り組んでいきます。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

工学教育等に精通する特命教授チームを立ち上げ、全国高専でワークショップ等を開催することにより、各高専の連携を強化し成果やノウハウを多くの教員に普及させることが可能となります。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもあると思いますか、それはどのようなものですか。

平成23年度に東京高専が試行した「社会実装プロジェクト」を基に、連携校に蓄積された特色ある教育資源やノウハウを共有し、高専全体で導入可能な教育プログラムを効率的に展開します。これにより、「イノベーション・エンジニア」を千人規模で育成し、新たな日本の基幹産業の創出に向けたインパクトを持つことが可能となります。

―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

7高専で推進する「社会実装プロジェクト」を一つのモデルとして、連携機関の協力を得ながら社会の要請に沿った学生の育成を推進します。これにより、高専が狭義の技術開発にとどまらないイノベーションを実現するイノベーション・エンジニアの育成を主導し、新たな日本の基幹産業の創出に人材育成面から貢献できるのです。

ステークホルダーからのメッセージ

公益社団法人日本工学教育協会 専務理事

剣持 庸一

イノベーションに着目した新しいエンジニア教育が、今まさに求められています。取組の柱である「技術の社会実装」は、エンジニアがユーザーやコミュニティとの協働により新たな価値を創造していくもので、教育面でもコミュニケーションやエンジニアリング・デザインの強化に大きな効果があると考えています。人材育成で実績を重ねてきた高専が、産業界等との幅広い議論を重ねながら新たな基幹産業を担う「イノベーション・エンジニア」を育成していくことを期待しています。

